

# きゅうぞう 急増する “無人駅”

じりつせいかつ  
自立生活センター・リアライズ  
にしとめかずひろ  
西留一浩

## ① 急増する無人駅

いま、鉄道会社各社が“駅の無人化”を進めています。理由は利用者の減少に伴う、経営の悪化により効率化が図られているからです。南海電鉄(全100駅)は2008年まで無人駅はゼロでしたが、その数は年々増え、この4年間で33駅にまで増加しました。自立生活センター・リアライズが南海電鉄に確認したところ「1日乗降客1日9000人以下の駅は無人化の対象」という説明があり、かなり大がかりな人員削減計画であることが予想されます。自立生活センター・リアライズの近くにある「松ノ浜駅」は1日あたり、およそ3,800人が利用していますが、この駅にも駅員は1人もいません。

## ② 無人化になることの問題点

大阪泉州地区の自立生活センター3センター【泉大津市のリアライズ、泉大津市より南の岸和田市にある自立生活センター・いこら一、そして、泉州地域の中で最も南にある、障害者自立生活センターりあん(阪南市)】が問題としているのは、たとえば、車いすに乗っている人の中で、切符を買う際に券売機に手が届かないため、駅員のサポートが必要になることがあります。電鉄側は事前に連絡して欲しいとしていますが、乗車する際は駅にあるインターホンで、ひとつ隣の「泉大津駅」の駅員に来てもらわないといけません。電車で来てもらうにしても30分以上待たないといけません。場合があります。駅員はインターフォンで対応すると言っていますが、誘導ブロックがないことや、聴覚障害者にはインターフォンがつかえないこと、急病人やけが人への対応や改札機のトラブル、エレベーターが作動しなくなった際の緊急対応はインターフォンではできません。ホーム転落の危険性、高齢者への対応など、無人駅になることで障害者だけでなく、駅を利用する地域の人達の駅の利用の安全性も危

ぶまれます。何よりも駅が不便になることによって障害者の外出の抑制につながってしまうことがすごく懸念されます。

リアライズの事務所がある泉州地域には障害者が外出したくても駅が不便であることや、家族が外出を許してくれない、障害者の地域生活を支える制度も薄いというのが未だにたくさんあります。南海電鉄の問題は障害者の外出の抑制につながるということ、障害の移動の権利を奪うものだという、障害者の自立と社会参加の機会を奪うものだという、とても問題だと思えます。

## ③ 南海電鉄との交渉

無人駅になることの告知についても、僅かな期間だけだけ周知の貼り紙が出されただけで、ビラ配布など住民への理解に努めることも怠っており、公共交通機関としては十分とはいえない対応です。3月29日に「南海電鉄駅の無人化に対する要望書」を南海本社に提出し、4月16日に南海電鉄の担当者と、これまで南海電鉄と交渉していた南部障害者解放センターをはじめとする、南海電鉄沿線にある自立生活センター・3団体と障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議(障大連)が参加した話し合いを設けました。南海電鉄側から、無人駅の経過について、「少子高齢化や過去20年間で売上が26%減少で歯止めがとまらない。経営戦略の一環」という説明がありました。いくら無人化による危険性や、差別問題だということを訴えても「インターフォン・モニター・踏み切り警報装置・遮断機、非常ボタン等で安全を確保しているという認識。」や「ご理解ください」の一点張り、あとは文章回答で終わらせようとしています。地域住民の安全と命を南海電鉄はその程度しか考えていないようでとてもがっかりしました。いかに継続協議に持ち込むかが今後の課題です。

#### ④これからの展開について

この南海電鉄の駅の無人化問題については、障害者団体だけでなく、無人化になった駅周辺の地域住民からも無人化についての反対の声が大きく上がっているようです。地域の議員からも、議会などで積極的に泉大津市を動かすよう働きかけていきたいという話があります。松ノ浜駅周辺の自治会からも泉大津市の自治会連合会に周知するとともに、議員連絡会にも投げかけを行い、その後の対応について検討するという話があります。リアライズとしても地元選出の国会議員にロビーングを行うなどして、なんとか、この南海電鉄の駅無人化問題に歯止めをかけたいと考えています。これから地元住民や議員などと連携して取り組んでいくなど、いろいろ考えながら活動していきたいと考えています。

#### ⑤南海電鉄以外にも

乗降客の減少で無人駅を増やしているのは、南海電鉄だけではなくありません。近畿日本鉄道では全294駅のうち、2008年までは32だった無人駅を今では57に増やしています。

#### ⑥泉州TRYについて

8月25日～8月31日にかけて岬町から難波まで60キロを7日かけて歩く「泉州TRY」というのをします。ひたすら歩くだけでなく、他にもアピール活動、シンポジウム、南海電鉄の駅には南海電鉄の無人駅撤廃の要望書を渡します。各市町村役場には障害者差別解消法に伴う大阪府条例をつくってほしいという要望書を提出します。リアライズだけでなく僕たち大阪泉州地域の自立生活センターはこの取り組みを絶対に成功させたいと思っています。今でも自立生活センターのスタッフだけでなく自立生活センターを利用している人も含めて、みんな日夜準備に追われ必死になって取り組んでいます。この取り組みは軍資金0円からはじめていて、募金活動とTシャツを作成してそれを販売して資金を集めています。是非私たちに力を貸してください。お願いします。

#### ★泉州TRY募金とは★

この募金は、資金ゼロからのスタートとなる泉州TRYの活動資金を集めることを目的とします。泉州TRYに向けての資金集めは募金活動、グッズ販売が大きな柱となり、この泉州TRY募金が今後の泉州TRYを大きく左右する活動となります。泉州TRY決行までの間、泉州～大阪市内周辺にて場所を変えながら定期的に行っています。